

先日は、2月のてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、3月10日(土)で、「冬芽と樹皮」がテーマです。ぜひご参加ください。

\*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、3月4日(日)の9:30からです。

## 2月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→博物館駐車場→手賀沼遊歩道→けやき広場→藤棚→旧水生植物園→けやき広場でまとめ&解散
- 観察日時と天気：2018年2月10日(土) 10:00～12:00 晴れのち曇り
- 参加人数：40人(大人32人、子ども8人)
- 市民スタッフ：7人(木村稔、湯瀬一栄、小泉伸夫、伊東茂子、弘實さと子、石原直子、染谷迪夫)
- 鳥博職員：1人(岩本二郎)

## 観察した生き物の記録(下見を含む)

【鳥類】カモ科：コブハクチョウ、オオハクチョウ、カルガモ、オナガガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：クイナ\*、ヒクイナ、バン、オオバン／シギ科：タシギ／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／カワセミ科：カワセミ／キツツキ科：コゲラ\*／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ、ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン／家禽および外来種：ドバト

【昆虫】チョウ目：イラガ(さなぎ)\*、アオイラガ(さなぎ)\*、ヒロヘリアオイラガ(さなぎ)、オオミノガ(幼虫)\*、チャミノガ(幼虫)\*／カマキリ目：ハラビロカマキリ(卵)\*、オオカマキリ(卵)\*／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、プラタナスゲンバイ\*

【植物(花)】アブラナ科：ナズナ\*／オオバコ科：オオイヌノフグリ／シソ科：ホトケノザ\*、ヒメオドリコソウ\*

(注) \*印は2月4日の下見の時に確認した種

# 2月に観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは「シジュウカラとゆかいな仲間たち」でした。ここでは、森林性の留鳥（1年中生息している鳥）に冬の間よく見られる「混群」という生態について紹介しました。今回はシジュウカラとエナガと一緒に登場してくれましたが、混群ではその他にも、ヤマガラ、メジロ、コゲラといった鳥たちも混ざって、異なる種同士と一緒に行動する姿を見ることができます。また、今回は混群の他にもツグミ、カシラダカ、ジョウビタキ、オオジュリンといった、冬限定の鳥たちがよく見られました。葉が落ちた後なので、全体的に鳥が見やすく、冬の観察会ならではの良さを実感することができました。



今月の案内人 木村稔さん



湯瀬一栄さん



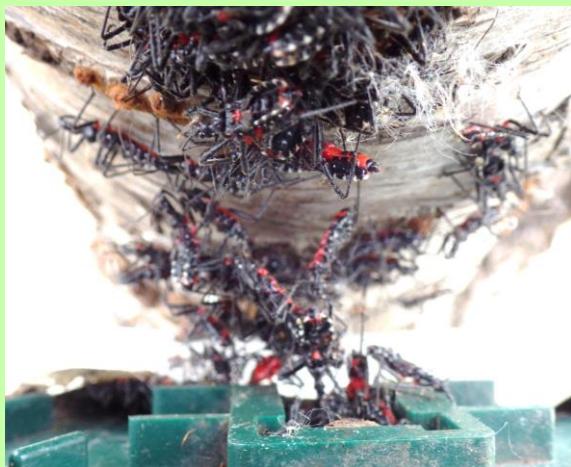
① 田んぼや畑に多いハシボソガラス



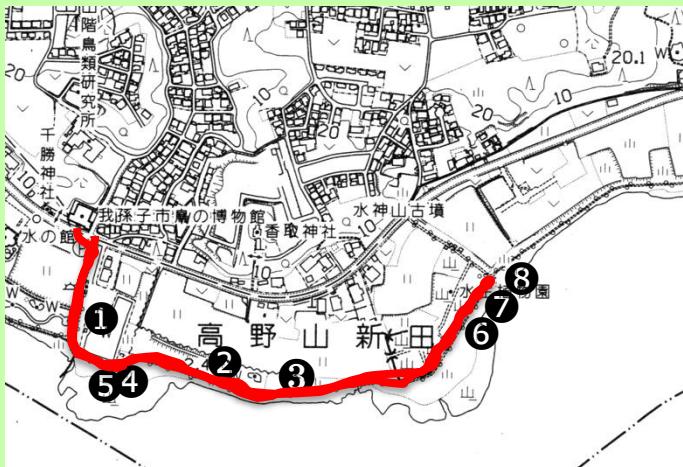
② 代表的な冬鳥、ツグミ



③ 木のてっぺんでさえざるホオジロ



④ 樹名札の裏で越冬するヨコヅナサシガメ



歩いたルートと観察した生き物



⑤ さなぎで越冬するヒロヘリアオイラガ



⑥ 採餌するオオバン



⑦ 水辺でエサを探すハクセキレイ



⑧ 陸に上がって休むオナガガモのメス

## 今月の鳥 シジュウカラ スズメ目シジュウカラ科

スズメと同じくらいの大きさの、お馴染みの鳥です。家の庭や公園によく飛来し、巣箱もよく利用します。元々は森林に生息する鳥で、常緑広葉樹林から落葉広葉樹林、ブナ、林針広混交林、針葉樹林、人工林と、あらゆる種類の森林に生息します。繁殖は樹洞、キツツキの古巣、石垣、電柱の穴等にコケを敷き詰めた巣をつくります。巣にコケを運び込む作業はメスだけで行うことが知られていますが、抱卵はメスのみが行い、オスはその間、メスにエサを運び続けます。卵は8～10個産みます。メジロやヒヨドリなどとは異なり、ヒナが空を飛べるようになってから巣を出るので、孵化後、親鳥が巣にエサを運び込む期間は長く、巣立ちまでに20～23日間かかります。繁殖期には昆虫をよく食べますが、雑食性で他にもいろいろなエサを幅広く利用し、多様な環境に生息することができます。



胸にネクタイのような黒い1本の線が通っているのが特徴です。

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。